

感染トピックス

中心ライン関連血流感染



カテーテル血流感染を疑う場合

カテーテル先端の培養検査だけでは診断できません

カテーテル関連血流感染（CLABSI）やカテーテル起因性血流感染（CRBSI）の診断には、血液培養の提出が不可欠です。

必ず2セットの血液培養の採取！

2セット採取することで、検出感度が大幅に向上します。

【血液培養陽転化時間】

カテーテルを抜くべきか悩ましい時には血管内カテーテル血・末梢血をそれぞれ培養に出して、ボトルの陽転化時間の差を測定することで判断できる場合があります。

例) カテーテル血陽転化時間 12:00
末梢血陽転化時間 14:00

カテーテル血が2時間以上速く陽転化すればカテーテル感染の可能性大

通常陽性時間を報告していません。特殊なケースでは結果にコメントすることもできます。

カテーテル関連血流感染（CLABSI/CRBSI）撲滅へ📧